バックナンバーはこちら

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第10回　受験生の錯覚・先生の錯覚

新年度を迎えました．今年度も私の駄文にお付き合いくださるご寛容に感謝いたしております．どうぞよろしくお願いいたします．

大学入試が実施されました．

今年の東大の数学の問題は，文科・理科いずれも，昨年同様にあるいはそれ以上に格調の高く，レベルの高い良問揃いでした．

一方，京大の数学の問題は，文系および理系（甲）いずれも，回転体の体積を求める問題を除いては，昨年に比して少しやさしく感じられました．理系（乙）もやはりやさしくなったように感じました．もっとも，その問題の背景を考察してみると格調の高さは色褪せるものではありません．

1 受験生の錯覚

このように問題の難易は変化するものです．問題の難しさに世間の注目はいくようですが，問題がやさしくなったときに危惧することがあります．

受験生に，「入試問題がやさしくなった」ことを「合格しやすい」あるいは「自分は数学ができる」ことと錯覚して，数学の修行を怠る者がいないかということです．

高校生で

「僕でも，志望校の問題の６割は**取れそう**だから数学は大丈夫だ．」

とか，あるいは予備校生で

「今年落ちたのは**数学がわからなかったからでなく**て，英語と理科ができなかったからだ．
だからこの一年は英語と理科にかけよう．」

とか思って，数学の修行を怠る人がいないかと……

心配です．とても心配です．これは

受験生が陥りやすい錯覚

だからです．これを指摘することも受験生を指導する者のひとつの仕事だと思います．

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ついでに，本題と直接の関係はありませんが，私は，合格を目指すということだけではなく，「数学を学び数学を楽しもう」とか「大学に入ってからの勉学に役立つものにしたい」とかいう思いで受験勉強をして欲しいと思っています．そういう思いがあれば，入試問題にとらわれることなく勉強するのですが……

2 先生の錯覚

あまり勉強してこなかった受験生を指導するのはたやすいことではありません．大学入試までのギャップをいかにして埋めるか，難しい問題です．

予備校では学力別クラス編成がなされています．高校では必ずしもそのような編成になっていないと思いますのでなおさら大変でしょう．

そのときに成績のあまりよくない生徒たちに，どこまで教えるか，ということが先生の間で話題になることがあります．

バックナンバーはこちら

「学力の低い生徒には**どうせわからない**からむずかしい話はしない.」
という考えがあります．これも**先生が陥りやすい大きな錯覚**ではないかと思います．なぜなら，

今の学力は過去の蓄積されたことであるが
教えることは未来に向けてのことである

からです．過去にサボってきた，過去に教えてもらえなかった，過去に学ぼうとしなかった... いろいろな状況を抱えて生徒たちは教室にいます．しかしながら，若者の可能性は大きい，きわめて大きい，勝手に彼らの未来を制限してはいけない，と思うからです．

どんな学力の生徒にも，語るべきと思う数学を**遠慮しないで**（?）話すことにしています．その準備度合いに応じて例などは煩雑なものは避けるなどの配慮はしますが．

意外と生徒たちは理解しようとするものです．彼らは潜在的に学びたいと思っています．もちろんすべての生徒が，というわけにはいきません．絵の上手な人や歌の下手な人がいるようにすべての人が数学ができるようになるとは限りません．しかし，すべての生徒の可能性は信じていかないと... と思っています．大変ですけどね．

学校法人 河合塾　数学科専任講師　**大竹真一**